

## 塩飽諸島

塩飽諸島は、本州の岡山県と四国の香川県の間備讃瀬戸海峡に連なる 28 の小さな島からなっています。ほとんどの島は無人数島ですが、本島、広島、与島、牛島などの大きな島には、多くの歴史のおよび文化的な場所があります。塩飽諸島は、古くから通商や海上交通に欠かせない存在でした。備讃瀬戸海峡のしばしば危険な海流から人々を保護し、瀬戸内海においてはもちろん、遠くまで名を馳せた船乗りや造船業者を支援したのです。操船に長けた者は塩飽水軍と呼ばれ、優れた船大工は塩飽大工と呼ばれるようになりました。現在では、このような職人は地元でほとんど姿を消しており、島の人口は減少し高齢化しています。しかし、新たな希望が観光によってもたらされています。いくつかの島で瀬戸内国際芸術祭が共催されており、3 年ごとに世界中からこの地域を訪れる人々を魅了しているのです。